

広告

宇部興産中央病院医療最前線  
—シリーズ患者さんに寄り添う専門医療 ⑥—

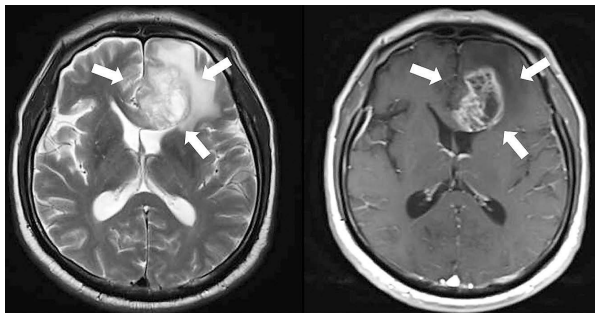
# 悪性脳腫瘍の 代表グリオーマ

その特性と最新の治療について



脳神経外科  
部長 出口 誠

- 資格**
- 日本脳神経外科学会専門医、指導医
  - 日本がん治療認定教育医、認定医 ●日本神経内視鏡学会技術認定医
  - 日本脳卒中学会認定脳卒中専門医 他
- 学会**
- 日本脳神経外科学会 ●日本脳腫瘍学会 ●日本脳腫瘍の外科学会
  - 日本脳腫瘍病理学会 ●日本頭蓋底外科学会
  - 日本神経内視鏡学会 他
- 専門**
- 脳腫瘍の外科治療 ●悪性脳腫瘍の化学療法
  - 神経内視鏡による内視鏡治療 他



(写真1) 膠芽腫のMRI画像。左が脳のはれを表し、右が造影剤を使った検査

皆さんは「脳腫瘍」という病気にあまりなじみはないと思います。もちろん決して多い病気ではありませんが、実は100種類以上もありその頻度も人口10万人あたり12〜15人程度。つまり山口県の人口を150万とする、年間180〜230人程度発症する事になります。

脳は神経細胞(しんけいさいぼう)、神経線維(しんけいせんい)、そしてその間を埋める神経膠細胞(しんけいこうさいぼう)、別名グリア細胞)から作られています。その中でも神経膠腫(しんけいこうしゅ)別名グリオーマ)は神経膠細胞から発生すると考えられている悪性腫瘍で、脳腫瘍の約30%を占める最も多い種類の一つです。また、グリオーマは周りの脳に浸み込むように成長するため、正常脳との境界は不明瞭で全てを取り去る事は難しく、これが治療困難な原因の一つになっています。

脳腫瘍には他のがんのようにステージ分類はありませんが、代わりに悪性度(グレード)が1〜4まで分類されています。このグレードは治療成績と強い相関があり、グレードが高い程治療効果も悪くなります。グリオーマにはグレード1の良性に分類されるものもありますが、その約半数は膠芽腫(こうがしゅ)というグレード4に分類される大変予後の悪いタイプになり、人に発生する「がん」の中でも最も悪性度が高いものの一つになります。かつて広島東洋カープのリリーフ投手がこの病気に罹患した事はあまりにも有名です。

症状は主に二つに分類されます。一つは脳の圧が高くなり生じる症状です。これは脳腫瘍ができる事によって脳にむくみが生じ、硬い頭蓋骨の中で脳にかかる圧力が高くなる事から発生します。具体的には朝方に特に強い頭痛(モーニングヘッド)と呼ばれる事やむかつきを繰り返す事が特徴です。もう一つはグリオーマができた場所の脳の機能が障害されて発生する症状です。手足や顔の麻痺やふらつき、それつがまわらない言葉が出てくなどの症状が代表的です。その他、いれんや物忘れなどの症状で発症する事も少なくありません。脳卒中の症状にも似ていますが、大きな違いは突然発症する脳卒中とは対照的にこれらの症状が徐々にゆつくりと進行する、

といった点が異なります。診断には、CTやMRIと有効です(写真1)。グリオーマの多くは造影剤と呼ばれる注射を用いるとその病変部位を明瞭に映し出す事ができますが、境界が不明瞭なものも少なくありません。この様な場合PET検査などが非常に有用ですが、宇部興産中央病院ではPETを含め様々な画像診断ができるような医療体制を整えています。これらの検査は基本的に外来検査になりますので、グリオーマに対する治療の基本は、手術、放射線治療、化学療法になります。中でも手術は腫瘍の種類を決定し、取り去るだけ多く腫瘍を更に取り去るとい意味で最も効果が有り、全ての治療の基本になります。腫瘍の取れた量と生存期間は密接に関係しているため、出来るだけ多く取り去る努力が必要です。しかしながら、脳には様々な機能があるため通常はこれらの摘出に臨む訳にはいきません。つまり、「できるだけ腫瘍を取り去る事」と「できるだけ脳の機能を守る事」という相反する目的を達成する事が手術の目的になります。

基本的には高性能の顕微鏡下で手術を行います。が、「腫瘍を取り去るための補助的方法として手術中のナビゲーションシステムが導入されています。イメージと入るの車のナビに近く、手術中に操作している場所が画像上のどの辺にあるかをリアルタイムに知る事ができるシステムです。また、グリオーマ細胞のみを術中に蛍光発色させて確実に腫瘍

を取り去る手術も行っています。「機能を守る」事に関しては「手術中に脳波検査を用いて常に手足の運動神経が保たれている事を確認する手法、または言葉の確認機能を守る場合は手術中に患者さんと会話しながら手術の機能を確認しながら手術する方法、いわゆる「覚醒手術」も行っています。

残念ながら前述したような手術でグリオーマの全てを取り去る事はできないという現状があります。従って残った腫瘍に対しては放射線療法と化学療法の追加が必要ですが、標準的治療には、悪性度が高いグリオーマには6週間の放射線療法に「プロモダール®」という抗がん剤の内服を組み合わせた治療を行っています。近年ではグリオーマに対する新しい治療も次々と開発されており、新しい抗がん剤や臨床試験の段階ですが、様々なワクチン療法も全国各地で行われています。また昨年よりグレード4のグリオーマに対して、電場治療という新しい治療法も導入されました。頭皮を発生し張りを付けた電場を発生させ、腫瘍細胞の増殖を抑える治療法です(写真2)。この治療が受けられる施設は全国でも限られています。宇部興産中央病院は昨年より認定施設に選ばれており、治療が受けられるようになってきています。

以上のようにグリオーマの治療は手術の技術のみならずその特性と様々な治療法に対する深い知識が必要で、脳腫瘍を専門的に治療出来る施設を受診する事をお勧めいたします。

お問い合わせは宇部興産中央病院脳神経外科外来まで。  
☎0836-51-7304



(写真2) 電場脳腫瘍治療システム

宇部興産中央病院は地域医療支援病院です

〒755-0151 山口県宇部市大字西岐波750番地  
地域連携室 ☎0836-51-9421